

## 年次活動報告書発刊に寄せて

熊本大学工学部では、平成12年度(2000年度)から毎年、本学部及び大学院自然科学研究科(工学系)の年次活動報告書(年報)を刊行して参りました。本年も、本学部評価情報専門委員会ならびに各学科のご尽力により、ここに第13号が完成いたしました。

本報告書には、平成23年度(2011年度)における教育、研究、社会貢献、管理運営など各分野における所属教員の多彩な活動の実績や、部局運営に関する組織としての取り組みを、フォーマットを固定し、時系列的にも比較が可能な形でまとめております。学外の方々に組織としての活動状況を的確にご理解いただき、大学運営について指導助言をいただくための情報公開が本報告書作成の目的ですが、同時に、教職員自らがその活動を客観的に振り返り、次期の活動を企画検討する際の資料として活用されることも意図しております。是非とも内容をご一覽いただき、ご活用いただけましたら幸甚に存じます。

さて、工学部及び自然科学研究科では、第一期の中期目標・計画期間(平成16~21年度)において、国立大学法人の運営体制の礎を築き、学部運営、教育研究体制、さらには、地域貢献社会貢献活動に着実な成果を上げて参りました。第二期の中期目標・中期計画期間(平成22~27年度)では、「研究拠点大学を目指し、国際化を推進する」とした本学の目標に沿って、また第一期の成果を踏まえて、教育研究、社会貢献、さらには管理運営に新たな息吹を吹き込むべく活動を展開しております。

教育面では、教育の質を保証する取り組みとして、6つの学科が外部審査機関からISO14001やJABEEなどの国際水準の教育プログラムの認定を継続して受けています。ものづくり教育では、ものづくり創造融合工学教育事業(平成17~21年度)の成果が認められて新たに、「革新ものづくり展開力の協働教育事業」(平成23~26年度)が採択されスタートしました。この事業では、これまでの体感型授業や問題発見・解決型授業の開発・拡充の他に、学部、学年、学内、国内を超えて、協働し、競争するものづくり教育を実践しています。韓国東亜大学と協働してスタートさせました国際混成ものづくり教育プロジェクトは、ユニークな取り組みとして注目されています。また、「理数学生応援プロジェクト」(平成21~24年度)も、文部科学省の事業として採択され、理数科目に意欲・能力のある学生の能力を伸ばす教育プログラムとして学生募集を開始しました。国際化を意識して新たに、EEC(Evening English Class)、外部試験(TOEIC-IP)がスタートしました。学生諸君が外部コンテストや海外研修等に積極的に参加する機会が増え、学外受賞などの成果も挙がっております。

平成20年度に9年間ぶりに復活した工学部運動会は、工学部学生会諸君の努力により、平成22年には応援団も復活しました。これらはまさに工学部の元気の源といえます。

研究面では、衝撃エネルギー科学研究グループが21世紀COEに引き続き、グローバルCOEプロジェクト(平成20~24年度)に採択されています。この研究グループは、国際的に卓越した研究拠点として「パルスパワー科学研究所」への展開も検討しています。地域結集型研究開発プログラム(平成18~24年度)の採択を受けた、KUMADAIマグネシウム研究グループは、本学を核とする国際研究コンソーシアム構築、企業への製品開発用材料の提供、「先進マグネシウム合金国際研究センター」の設置など、飛躍的な成果を挙げています。これらに続く研究グループとして、五つの研究コアからなる革新研究加速化プラットフォーム、さらには若手研究者を育てる革新研究加速化研究助成制度もスタートして、研究活動も益々活性化しています。

最後になりますが、大学には今、中教審答申や大学実行プランに述べられているように、様々な面での改革が求められ、学部学科の強みや特徴を活かしたグローバルに活躍できる人材の育成や社会的な役割を果たすことが期待されています。工学部はこれまでの実績や蓄積を踏まえて、その教育力や研究力に一層の磨きをかけ、世界水準の教育と国際的に卓越した研究の実践に努力し、研究拠点大学の実現に取り組んで参ります。今後とも、本学部ならびに本学の活動に対し、ご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2012年3月  
工学部長 里中 忍